

令和4年度 第1回阪南市都市計画審議会 会議録

【開催日時】 令和4年8月23日（火） 午後3時00分から開催

【開催場所】 阪南市役所 3階 全員協議会室

【出席委員】 委員15名中、14名の出席の下、開催した。

下村 泰彦、日野 泰雄、三星 昭宏、岩室 敏和、岡 やよい、上甲 誠、
角野 信和、福田 雅之、奥野 英俊、相良 修一郎、古野 悦治、
吉田 美智子、藤原 正久、森 繁利

【欠席者】 瀬田 史彦

【傍聴者】 なし

【案 件】

- ①会長、副会長の選出について
- ②会議及び会議録の公開について
- ③阪南市都市計画マスタープランの改定について（報告）

【結 果】

- ・本審議会の会長に、日野委員が選出された。
- ・本審議会の副会長に、下村委員が選出された。
- ・会議及び会議録の公開について、承認を得た。

【質疑応答】

○阪南市都市計画マスタープランの改定について（報告）

（会 長） 全体構想について、施策の柱と施策という構成がわかりにくいように思う。施策の柱は各項目の基本方針的なものと考えてよいか。

（委 員） メインテーマとサブテーマのような関係、施策の方向性とそれを実現するための施策、というふうに読めるのではないかと考えている。この施策にぶら下がっているのが具体的な事務事業や企業側のアクションになる。

（委 員） 初めて資料を見るが、各図面が小さくて読みづらいので大きな図面にしていきたい。

（事務局） 現行の阪南市都市計画マスタープランにおいては、図面の箇所はA3サイズになっているが、改定に伴い、すべてA4サイズへの変更で考えている。そのため、図面自体は縮小されているが、見やすくなるように工夫する。

（委 員） 前回の都市計画審議会では、今年の3月頃に素案を説明する予定にされていたかと思うが、今回のタイミングになったのは何か問題等があったのか。

（事務局） 当初予定では3月に都市計画審議会を開催する予定であったが、急遽、1月に都市計画審議会を開催しなければならない事情ができたため、タイミングのずれ等もあり今回の開催となった。

（委 員） 各市町村が計画を作る際、タイトルや項目などがどこも同じで金太郎飴のようになる。そのため、従来の都市計画マスタープランから一歩踏み込んだ課題に対して、ポイントになるようなものを引き出してメリハリをつけてもらいたい。

個別の要望としては、バリアフリーに関する施策の記載内容が古いのではないかと思う。本市のバリアフリーに関する基本構想を作り直すべきであり、行政としてすぐに対応が難しいのであれば、課題として認識しているということは示しておくべきである。

(事務局) 今回の計画では、検討委員会の委員の皆様にも協力をいただき、できるだけ都市計画のためのマスタープランにしよう、ということで整理をしている。個別の施策に関しては、都市整備であれば立地適正化計画や公共交通網形成計画等のほか、各担当課がもつ個々の計画の中で位置付けているところである。

バリアフリーに関しては、国からの補助金を使って尾崎駅と和泉鳥取駅でエレベーターの設置工事を行っており、今回の計画においても鉄道事業者による事業を主として位置付けてある。

(委員) 今回大事なのは、阪南市としてどういった方向を向いて計画を進めていくかというところで、タイトルや項目の付け方等はどこの市町村でもそんなに変わりはないはずで、もう少し細かくなっていくと具体的になってくる。計画の中でも全体構想では具体的な施策等の記載が出てくるため、ここがしっかりと書けていれば、指摘があったような内容をフォローできるのではないかと思う。

(委員) バリアフリーに対する新しい課題がどんどん出てきており、そういったことに対応し、大阪府下でも見本になるようなまちにするくらい書けないか。エレベーター設置の補助金に関しても、基本構想が前提になっているものなので、本来の主旨からしても最新のものにしておく必要があると思う。

(会長) 阪南市のバリアフリーが大阪府下で最先端をいくということは難しいかもしれないが、バリアフリーマスタープランそのものを作ることが難しくても、その考え方を盛り込んだ計画にする都市も多くあり、どういった文言にするかは検討委員会でも検討いただけたらと思う。

(会長) 人口減少が進んでいく中で、どういったライフステージをターゲットにするのか、どの世代が一番住みやすいようにするのか、を考えることが大事であり、大阪の近郊都市であれば子育てや親との近居世代をターゲットにするということはある。そういった中で最近よく言われるのがリモートワーク等の働き方改革やワーケーション等であり、阪南市の強みはまさにその環境の良さで、今回の計画の中でもっと表に出てきてよいのではないかと思う。総合計画にどこまで書かれているかまでは把握していないが、ターゲットを明確にして住みやすく働きやすい都市施設整備、空間整備を行っていくと

いうことを強調できないかと思う。

(事務局) 総合計画との整合を図り、検討する。

(委員) 計画に書いてあることではなく、住民参加に関する新しい工夫はされているか。

(会長) 計画の中でも推進体制の構築として産官学民との連携の中で、協働や共創のまちづくりを進めるということの方針としては位置付けられているのかなと思う。その他にもいろんな分野で市民参画は行われていると思うので、そういった事例があれば紹介いただきたい。

(事務局) 今回の計画の策定にあたっては、検討委員会や作業部会の中で一般公募の市民委員の方に参加いただいております、事例が多くあるわけではないがそういった試みも行っているところである。

(委員) まちづくりの主体は当然ながら市民であることから、市民参画や市民主導・協働などの仕組み作りが必要である。

(会長) 以前から市民協働の推進に関する条例を作られている都市はたくさんあるので、そういったことも参考に何かしら計画の中で明示できるのであれば検討していただきたい。

(委員) 現行計画の評価について、今回の計画が公表されればそれが現行計画となるため、前計画の評価というような表現の方がよいのではないか。

(会長) 下水道に関する施策について、施設の老朽化の進展状況とあるが、進展ではなく進行の方がよいのではないか。

(事務局) いずれも、ご指摘の通り修正したい。

(委員) 現行の都市計画マスタープランでは、最後に戦略プロジェクトとして具体的な取組が位置付けられていてわかりやすかったのだが、今回の素案ではなくなっているため、イメージがわかりにくくなっていると思う。

また、計画の進行管理としてPDCAをどのように回していくか、も

う少しわかりやすくした方がよいように思う。

(事務局) 戦略プロジェクトに関しては、計画に位置付けているものの実際には実施ができていないという状況を踏まえたものであるが、各担当課とも連携し、具体的にできそうな部分をもう少しわかりやすくするなど検討していきたい。また、指摘いただいた箇所についても担当課に確認し、検討したい。

【午後 5 時 1 5 分閉会】